畫圖西遊譚

西遊旅譚巻之五

正月八日平戸(ヒラト)島(シマ)を發(ハツ)して田平羅(タヒラ)の渡一里夫より御厨(ミクリヤ)、三里又り車一里にして調川(ツキノカハ)と云所社人の房舎(ボウシヤ)あり茲の山中也此辺海岸(ミチカイガン)をめぐりて風景よし調川(ツキノカハ)より行ば一里志佐村といふところ今(イマ)福(フク)、二里ゆきてあゆげえといへる所を經て久原(クハラ)まで四里行り此入海を舩(クム)又ゆくなり三里伊万里(イマリ)に到る此所にて鍋(ナベ)島(シマ)侯(コウ)の領地(リヨウチ)にして焼物(ヤキモノ)を出せる大河内山(オヽカウチヤマ)有田山(アリタヤマ)此山中より焼出せる陶器(ヒトモノ)日本國中にいたれり

十日風雪まじり寒し
此領山多し屋敷野村
山の半に見ゆる此あたり
唐津と伊万里乃
境なりといへり
徳末に至る此あたり
三里あり濱崎といふ
所あり宮居此辺ハ山
山多し

調川より
御厨乃
町七ツ家
あり

有田山
佐賀山
唐津山
ハゼ村

大河内山
此山三里ノボリテ焼物ヲ作ル
牧島
クスク村
志作より今福ノ間ノ方ヲ眺
文島
ホシカ浦
鮪櫓
海中に

壹州

今福あたり行路より眺

大石多シ

志作村

十一日徳末を発(ハツ)して行事二里半吉井村に至り吉井川を渡りて濱崎に出る左の西海に唐津の城海湾(イリウミ)を隔(ヘダテ)て見ゆる 水野侯六万石ノ城下ナリ 又行事一里半深江(フカエ)に至り二里ばかり行て前(マエ)原(ハラ)に出る右の方は筑前(チクゼン)雷山(イカヅチ)の下(モト)をとをる山のかたち唐画のごとし谷々に雪の斑(マダラ)に降(フリ)て白し頂(イタヾキ)に不動堂あり又瀧あり

十二日前原を出て行事二里今宿に至る又行事二里にして
姪の濱といへる所人家續て一里ほとにて福岡なり黒田侯五十万石ノ城下ナリ
夫より行事半里博多なり富商多し昔唐船ノ入津シタル所ナリ博多織ハ唐京ニテ製ス今ハ其製ナシ
西の方海にして南は山にして壌土なり橙家々に植常に酢にもちゆ
風景石斛いものみつる山谷に生ず又石炭を出せり
正月十五日此地に留りて松林といへる祝事家々
戸ことに酒肉を設て旅人に饗す博多町人麻の
肩衣を着し下は裁付を着し足に手拭をしめ
頭に頭巾を戴草鞋をはき福岡の城内に入玄関に至り

酒とのみてくる是より松林をゆく所謂よたでの名なり
いふ博多ハ唐船の渡海して今猶さかんなし福岡の
領地なれバ故ありし時の風俗今に存せり近世ハ頭屋台
或祭りの時ハ出る櫛田の祠博多第一の大社なり柳町
ちかごろいふる色町なり
十六日博多を出て箱崎ハ此里の名の廣き見ゆる人家繁昌
崎八幡夫より松原を通りて青柳といふ四里此辺海中に見る
蔵の鳥也残の島見えて景色佳又山中に入二里ほど過て畝町といふ宿あり

雷山
モロミ河ニカヽル
橋七十間余
須賀山
うちかさなりて
皺茂し

松林（マツハヤシ）
博多町人福岡より

行事二里赤間に宿して十七日赤間を發して行事四里木
屋瀬にいたる此辺田畑廣原に鶴多し（ナベ鶴名ツル白ツルナリ　丹頂ハナシ蝦夷ニ多シト云）此わたり
石炭を掘出して石炭のうちより石を出す皆木紋ありて
松杉の化石と称するに石炭ハ山の根より出る箱根山神代
杉のごとく樹地中に埋れ石と化し硫黄の氣を得て燃るもの
（甚臭氣アリ油と硫黄ありて含むし）硫黄れ氣の不織物をのうちより出るにて
木紋ありて化石あり其大石あり枝ありて木のごとし
木屋の瀬ハ長崎への西海道なり是より黒崎へ出て小倉に
いたる小倉よりて三里海をわたる即下関（赤間ヶ関とも云）

藍島
大島
名島弁天
海中路
灘濱
亀シマ
筥崎八幡社
博多町百八町有

玄界シマ
鹿ノシマ
東照宮
福岡ノ方
ウグシマ

廿一日下関より船にて東風吹て防州（ハウシウ）（スハウ）灘（ダン）を走事三十五里奴和（ヌワ）と云小嶋に船をつける人家十八九軒あり又西風に帆をあげて藝州の内三原（ミタラヒ）に至る小嶋にて泊（ハク）す海岸人家多し廿三日出帆（シユツハン）し備後の鞆（トモ）と云所に船をよする（ヨセ）福山の領地也人家八九町あり船は汐を待て渡（ト）世（セイ）ある風なし海肉（ジユニク）賣店（バイテン）多し廿四日暁（アカツキ）帆を揚（アケ）て走事をとをくる十時備中の国牛窓（ウシマド）に至る岡山ノ領地此所にて船よりおり陸地（リクチ）を行事十里備中の岡山に至る二月十三日岡山を發足（ハウソク）して藤井一市（ヒトイチ）吉井川を渡り伊部（インベ）片上（カタカミ）八木山（ヤキヤマ）をこえ三石（ミツイシ）有年（ウ子）

備後の鞆（トモ）
備前の牛窓

此邊此山中多く有市川舟渡正条姫路加古川より大久保
此間五十町一里あまり行て明石舞子が濱淡路嶋甚近く
絶景也兵庫に楠正成の墓あり山に入布引の瀧三尊山下
一村梅樹多し花盛の頃は雪のごとし生田の社は清来
に至る道より摩耶山に登る甚高し山上より見れば西乃方なり
是より大坂へ五里二月廿三日浪華難波橋より池田
路とり逕池田の里に至る池田川ありて町四五町街あり
皆酒をつくる行事一里斗にして多田に至る多田の社より温泉池へ湧
廿四日多田を出て深山に入箕尾山にいたる瀑布といふ一の瀧

箕山瀑布
不動堂

數十丈直に落て那智の瀧に似る瀧の有山にのぼる路甚狭嶮
石をよぢて越る勝尾寺観音堂なり西三十三ヶ所の札所なり
山上より大坂の方を見るに五里斗も遥に城見ゆる夫より山をくだり
山田の宿より此所を西領に行すれバ食店あり河を二所舟にて
渡る一つハ長良の渡しと云渡りてほどなく大坂に入
二月廿八日浪華を出て闇峠を越て伏見の方に趣く伏
見豊後橋をわたり京町まで至町ハ裏手皆畑なりしく
畑の畔まで梅桃を多く植方六町ばかり桃山と名づく古ハ奈良
の方ハ此路より大和街道と云畑ハ諸侯の名ありに存せり

宇治見臺(ウヂミタイ)ハ宇治郡也 古の城内庭の跡とも云 西ハ小山よりのぞめり
湖中に堤あり 小倉堤(ヲクラツヽミ)とも云 秀吉公此堤を築(キツク) 奈良へ行に宇治
を廻らし遠(トヲシ)故に 堤三千町あり 岸に楊柳(ヨウリウ)多し 柳ごり此堤の細工なり
臺(タイ)中より見渡に 左の方ハ宇治の里 宇治川流れて 向ハ奈良山見へて
遥(ハルカ)に金剛(コンガウセン)山吉野山見ゆる 右より闇峠(クラガリタウゲ) モロノ木山 八幡山見へて申
湖中ニ漁舟楫(カヂ)を盪(ウゴカ)し 堤(ツヽミ)の半に漁村(ギヨソン)あり 西ハ桃の花
さかりにハ春ハ山も錦のごとし
墨染の里 遊亭(ユウテイ)あり 其の近所寺に墨染桜あり 橦(シユモク)
町(マチ)今ハ[illegible]のに遊色のちまたなり

宇治石寺より眺望しける図
八幡山
闇峠
金剛山
吉野山ノ方

黄檗山
春日山
宇治山
魚肉をも
酒デシガクアリ
花の時ハ茶店ヨリ出ス

三月朔日宇治の方に行伏見御幸の宮のまへをとほり桃山の下城跡を左に見て六地蔵木幡村をとほりて黄檗山萬福寺ハ唐僧隠元禅師影應の比創立ありて大伽藍なりそれより三室堂橋寺恵心寺奈良の方春日山大佛殿興福寺郡山の方より法隆寺立田の庵吉野の方まですべて是を大和廻りといふ古蹟多し能人の知る所なれば爰に不載それより京へ帰り出て数日留まれる名所古跡多けれど事長けれバ略す四条橋をわたりて東山の方に行祇園町遊亭を祇園の社夫より八坂の塔を清水観音の方へ行なり

西北ハ小野天神北の門より出紙屋(カミヤ)川にかゝる小橋を渡(ワタリ)一ノ鳥

の社より平野の森に桜多し 物寂(モノサヒ)たる社に華表(トリ井)今

出のうち御室(オムロ)まで御室(オムロ)堂の前八重桜多し夫より西へ

二十余町あまり嵯峨(サガ)釈迦堂まで七八町行ば嵐山あり

松の木陰(コカゲ)より一ノ重桜さき出て大井河との辺あり東ハ

桂川(カツラガハ)より亦山ハ丹波の方に続(ツヅケ)り其辺ハ茶店と出て酒食

ならひ渡月橋を掛る此を渡月橋(トゲツキヤウ)と名つけ渡りて虚空蔵(コクウザウ)

堂まで茶店(テン)あり夫より東の方へ帰る所路は松尾の社

梅宮(ムメノミヤ)まで甚(ハナハタ)賑(ニギハ)かなる所なり其日ともに遊行(ユウカウ)の人稀(マレ)なり

三条橋より四条をのぞむ

清水觀音
東山
八坂塔
大佛殿

嵯峨嵐山

虚空藏堂

錦かし桂(カツラ)の渡(ワタシ)手本通より嶋原遊女町の方より東寺(トウジ)に至弘法大師の像此寺に御開帳なり（二月廿一日より）諸人参詣多し本堂ハ千手観音講堂ハ薬師如来也此寺甚大伽藍なりしると仁の塔(イッコロ)焼(ヤケ)たり（羅城門有）西本願寺又本國寺の前をとほりて西南の洛外(ラクグハイ)を廻りてゆくゆく東の方へ叡山(エイザン)（近江ノ国ナリ）鞍馬(クラマ)貴(キ)布祢(フネ)賀茂出る人の志なき事ハ不語

三月廿八日近江国鈴鹿山をこゆる筆捨山景色よし残花あり咲

四月四日美濃の国谷汲山ニ至

本堂

十解峠一里廿五町アリ
峠ニ馬籠(ゴメ)宿あり

胞衣ヶ嶽(エナガダケ)
雪ありて白し
此所より五里ほど
九月すゑの頃照(てりり)
飛騨の 乗鞍岳(ノリクラガダケ)
北ノ方御嶽(ミタケ)
加賀ノ国ニ白嶽
又右ノ方駒ヶ岳
皆雪峯也

吾妻峠（ゴノ）草木多月のごとし山をめぐりてハ躑躅（ツヽジ）桜桃梨子花（ナシノハナ）咲

たるもの也　岐岨（キソ）河流（ながれ）桟道（サンダウ）続き所々（メグリ）溪水（ケイスイ）乃音高く響ハ

すし人家板屋作（イタヤツクリ）萱屋（カヤヤ）多く壁（カベ）も板にて栂欅（ツガケヤキ）の類也

八五原（ヤブハラ）奈良井の宿鳥井峠まで十八町のぼり三十町下る

熱川（アツカハ）より二里本山（モトヤマ）といふ所より岐岨路（キソヂ）へ下諏訪（シモノスハ）温泉（オンセン）（佗デユ）

二所にあり湖水（スハノ池是ナリ）の向ふ城見ゆ富士山も見ゆ

和田峠のぼり五里のおりも峠に茶店あるなり　四月

雪とくる也とぞ　七曲（ナヽマガリ）坂あり

研目川

橋

岐岨（キソ）の人家

駒ヶ嶽
流岐岨川ニ入

稲川橋
野尻須原の方
流ハ岐岨川ニ入
雪峰

四月十日浅間山の下を通る四十余年以前此山焼出し時の焼石ハ皆大石にして色黒く軽し 又七年以前の焼出ハ軽井沢より坂本碓氷峠山ハ皆焼石にして樹木枯れ岩石あり 此地寒風なれバ松すくなし 杉森し 又栃の木多し上州妙義山遠方より見るに山のすがた嵬く多し

一里余遠くより見る岩峰に二ツの穴あり其穴つらぬきて見ゆと云ふ百合若大臣射ぬきし穴と云

妙義山岩峯
画事不及

十二日深谷より熊谷宿あり堤にて町なる皂角(サイカチ)樹(キ)あり右の方相州大山又冨士山見ゆる四月十三日大宮より板橋なる郷里(ケウリ)神僊(シンセンザ)にいたる也

寛政庚戌四月　門人蘭江平民誌

江漢先生著

文金堂製本目録

大阪心斎橋通唐物町　河内屋太助

小學 序并附 大本二冊　世間に数本行はるれど読方誤りあり 今校正して素読のたよりとす

唐音和解 二冊　唐音を習ふ詩曲拳譜其外日本通用の言葉をときつくしたり

白石先生鬼神論 平かな本 二冊　経史に載る諸説を挙て論じ明白に得失を弁ず

為學初問 周南先生著 平かな本 二冊　此書ハ学問乃道理 儒仏神の論より和漢歴代の興廃諸儒の得失をくはしく弁じ 初学の惑を解く児童といへども読やすくきこゆ

天學指要 西村遠里著 四冊　定まる所にて天文の奥旨を含み 事を易きことを以て安くきかせて

孝經經典餘師 一冊　小児にても読易からしめ上段に かなをもて読方を記し本文の傍に かなを平かなにて文句の意を合せ是をそれぞれに委く注釈す 無学文盲の人も師匠なしに学問の出来る書なり

子華子 全二冊

書經講義 全部八冊　書經の注入

畫圖西遊譚 東都司馬江漢先生著 自画 五冊　江戸より長崎までの紀行なり 此書ハ先生遊歴の地奇譚珍説見聞に随ひ平かなにて 画を交へ記し西海鯨漁長崎唐人館の面白きことを記す

攷正難波丸 六冊　大坂市中町名尽諸商人所付一国の名所其外一切のことを残さず記す

大坂宮寺巡 小本 一冊

大坂寺社順拜記 一冊

大坂名所獨案内 小本 一冊

四天王寺伽藍記 一冊

新撰伊勢細見記 一冊　道中ことのり付名所古跡 宮めぐりくはしくきこゆ

両面年代記 折本 一帖　神代より王代年号の最初より当時に いたるまで年々の事跡をくはしくきこゆ せしたがふ年代記の随一なり

大成年代廣記 折本 一帖　和漢を上下に配当し朱と墨にて 年暦を分ちやすからしめたれば 歴代の興廃奇事変異など委しく 廿一史軍旨二十一代集 ならびの時代を記して和漢一覧の年代記なりて学者の必用に備ふ

燕石襍志 六冊　曲亭馬琴先生の随筆にして和漢の俗説を弁じたる面白き本也

孝經大義國字解 三冊

洪範全書 六冊

文化新刻 五經 道春点 李十一冊 素読本にして文字大きく一字の誤もなき善本なり

洪範和解 平多先生 講義入 全

四書字引 一冊

金華文集 平子和先生之集 四冊

徂來集 詩文尺牘を集 二十冊

古今詠物詩選 朱竹垞先生輯 全四冊 合本 五冊 附録 歴朝名家詩話 漁洋山人著 一巻
漢魏六朝より隋唐五代宋元明人の至までの歴代の名家詠物の詩を文苑集の内より選輯す 袖珍本

初學作文圖牋 折本 一帖 初心の人文章を作る法を示し易く記し此序をも作直に出来る

李喬詠物詩選 一冊 唐の李喬が詠物の詩を一首ものこらず集む

唐明詩類函 二冊 名家の詩二千二百余首を小冊に納て作例の便とし次

同 二集 歴代名家之部 二冊 歴朝詠体の異なるを載て初学詠物詩を作る要に備

月氷奇縁 馬琴著 五冊 いろく入組たる敵うちのおもしろき繪入よみ本なり

新累解脱物語 同著 北斎画 五冊 祐天上人累の死霊を教化のこと本にて繪入

松染情史秋七種 同著 豊廣画 五冊 お染久松の繪入よみ本なり

昔語質屋庫 同著 五冊 古器旧衣にあづかる和漢の俗説を弁じたる面白き読本也

金花夕映 谷峩著 北嵩画 五冊 唐金藻右衛門日観上人丹波与作関の小まんの物語読本也

石言遺響 馬琴作 北馬画 五冊 小夜中山夜泣石の由来並山賊のよみ物がたり面白し

月宵鄙物語 五冊 姥捨山の故事伏屋の長者菌原のくわしく物を面白く書のべたる画入本

小栗外傳 北斎画 六冊 小栗判官照天姫の奇遇を画入にてくはしく書入たる本なり

拳會角力圖會 二冊 拳の打やう声の廉弟子相撲の出しやう其外色々のけいこをまとめ

滑稽即興噺 山東京傳閲 五冊 おかしき趣向のはなしを集めたる本也

日本名勝詩選 小本一冊
諸名家名所古跡遊覧の事等の詩を多く集

本朝詠物詩選 一冊
艸廬先生著
詠物の詩をあつめ集む

七書正文 二冊
溪百年先生校正の本にして一字一畫の誤りなき素読本の最上なり

同頭書 五冊

同俚諺抄 十冊
注ちかひなく注そ圖解

孫子經典餘師 諸家附 平かな注入

呉子國字解 三冊

武用辨略 八冊
武門に入用のもの一事もこもらさず故事起源をくはしく記す

頭書 校正 武用辨略 五冊
天時地理國府城郭武兵弓矢甲冑鷹犬まで古実由来を記す

本朝武具要説 一冊
武田信玄公武器の長短得失の道理を論ぜし書なり

古今軍器製作辨 二冊
昔より武器の造り方得失をしるす

楠七巻書 五冊
楠家代々の兵書にして軍学者必覧の書なり

築山庭造傳 三冊

同庭作傳 一冊
庭のつくり方泉水築山石の居やう道石燈籠のおき方其外林泉の法式を記す諸家名高き林泉を圖に出し手本に備ふ

聞書秘傳抄 一冊
万染物の仕やうつけ物又は青物貯やう其外人家重宝のものを多く集

農家益 三冊
はじの木の植やう実時節のこらえ土地の見やうこやしの方接木の口傳くはしく素人のさとし易きやうに繪を加へ委くしるす是を植る農家の益を得ること廣大にして國を富し家を利するの術のすゝめらるゝ事是にすぐるものなし園を食田と費さず道端畦畔原野又ハ水のうるで悪き不毛の地火除地などによく育ちそ五穀の妨とならず夫よれ効の莫大なることばかりしるす

同後篇 二冊
此書ハ是まで櫨を植し国郡の大益をなし仕法を述前篇に漏さし土地の開き方つぎ苗早ごしらへ晒蠟生蠟の取やうしぼり方蠟の製方びん付油の製方まで委く微細にしるし家

袖珍 國華万葉箋
諸国名所并景物枕詞続合など悉く其居ある名所を挙て書之

都名所圖會 六冊
同 拾遺 五冊
大和名所圖會 七冊
河内名所圖會 六冊
和泉名所圖會 四冊
攝津名所圖會 十二冊
以上 平安秋里大人著 五畿内名所圖會 箱入全部三十冊
東海道名所圖會 六冊
木曽路名所圖會 七冊
伊勢參宮名所圖會 六冊
播磨名所圖會 五冊
紀伊國名所圖會 五冊
同 二篇 五冊
住吉名勝圖會 五冊
廿四輩順拝圖會 十冊 山陰道名所記とも
唐土名勝圖會 六冊 大清都の有さま名山人物等今の唐土を目前に見る如く委しく記ス
都花月名所 懐中本 一冊 月雪花虫紅葉其外にしゆうる名産の所々を出し好事の人の便とし

芝居両面鏡 大坂の芝居を見るに此書なければ不案内の人も直にそれ〳〵楽屋内の書なり
戯場訓蒙圖彙 五冊 江戸の芝居の事をくはしく記す 并に負うせ繪入にしてあらはす
歌舞妓叢書 十二冊 さかゐのこと〳〵一切漏さず記し考古の書なり
俳優奇跡考 八冊 古今役者名人の一代記狂言の次第をつまびらかに記す
役者百人化粧鏡 一冊 百人一首になぞらへて名人の似顔をあらはす
同 艸比種 似負画入 一冊
舞臺俤 彩色似負入 一冊
俳優濱比真砂 六冊 金門五三桐の筋がきに似負画入の本なり
川崎音頭 伊勢千人伐 五冊
五大力 さつま源五兵衛 五人伐 四冊
三勝櫛 三勝半七 六冊
言葉艸 平井権八 五冊
秋葉話 日本左衛門 六冊
戯場枝折 宿無團七 三冊

享和三年癸亥八月發行

江戸書林　中橋南傳馬町壹町目
鴨伊兵衛梓